

板橋宿



現在の板橋

徳川幕府により中山道第一番目の宿場町として設置された板橋宿は、上宿・中宿(現在の仲宿)・平尾宿の3つの宿場からなり、天保年間(1830~1844年)の時点では、本陣は中宿に1軒、脇本陣は各宿の名主が兼帯し、旅籠は54軒ありました。宿場名や区名の由来となったともいわれています。

板橋宿の面影

江戸時代に整備された街道と宿場町を中心に発展してきた板橋区。多くの史跡が残る旧中山道「板橋宿」の周辺は、石神井川沿いの桜も見事で、歴史と自然に恵まれた区民自慢のスポットです。

中山道第一番目の宿場町として発展

日本橋から二里二十五町三十三間



「木曾街道板橋之駅」英泉画 現在のJR板橋駅付近



明治8年頃の板橋

明治



江戸時代の板橋

江戸